

< あなたの治療について >















外科 - PER/HER/PTX - weekly - 乳腺

今回の治療は、PER/HER/PTX-weekly 療法という治療法で、パージェタ（PER）とハーセプチン（HER）とパクリタキセル（PTX）という3種類の注射薬を併用して行います。パージェタ、ハーセプチン、パクリタキセルは、いずれも腫瘍の増殖を抑えるお薬です。3つの薬を組み合わせることで、より効果を高めることができます。

◎ 治療全体の流れ

今回の化学療法は3週間が1コースとなっています。各コースの1、8、15日目に点滴を行います。この治療を3週間（21日間）ごとに繰り返します。副作用が強く出たり、体調がすぐれない場合は回復するまで、治療を延期したり、お薬の量を減らしたりすることがあります。

◎ 1コース分の治療スケジュール

順序	薬剤商品名 (薬の作用)	投与	1日目	2~7日目	8日目	9~14日目	15日目	16~21日目
①	パージェタ (抗がん剤)	点滴 初回 約60分 2回目から 約30分		お休み	お休み	お休み	お休み	お休み
②	ハーセプチン (抗がん剤)	点滴 初回 約90分 2回目から 約30分						
③	レスタミン (アレルギーを抑える薬)	内服						
④	デキサート ファモチジン (アレルギー予防・ 吐き気止め)	点滴 約15分						
⑤	グラニセトロン (吐き気止め)	点滴 約30分						
⑥	パクリタキセル (抗がん剤)	点滴 約60分						

★ 点滴中や点滴後に、注射部位が痛い、赤くなつてはれる、水ぶくれができる、ただれるなどの症状に気づいたときは、すぐに申し出てください。また点滴中は、腕を動かすことにより針がずれ、点滴漏れが生ずることがありますので気をつけて下さい。

◎起りやすい副作用について (頻度 20%以上)

パージェタとハーセプチンとパクリタキセルについて

- 白血球数減少、好中球数減少 ●発熱 ●悪心 ●下痢 ●発疹 ●頭痛 ●疲労
- 末梢神経障害 ●関節痛 ●脱毛

◎特徴的な副作用について

パージェタにおける

- 心不全

「階段や坂道をすこしのぼっただけで息切れがする、疲れやすい；足がむくむ、横になると息苦しく座っている方が楽である、夜間にせき込む」などの症状

●Infusion reaction

「発熱、悪寒、嘔気、嘔吐、疼痛、頭痛、咳、めまい、発疹、無力症等」などの症状

ハーセプチンにおける

●心不全

「階段や坂道をすこしのぼっただけで息切れがする、疲れやすい；足がむくむ、横になると息苦しく座っている方が楽である、夜間にせき込む」などの症状

●Infusion reaction

「発熱、悪寒、嘔気、嘔吐、疼痛、頭痛、咳、めまい、発疹、無力症等」などの症状

パクリタキセルにおける

●過敏症状

呼吸困難、胸痛、低血圧、頻脈、徐脈、潮紅、血管浮腫、発汗等

***パクリタキセルを点滴する前に過敏症の予防薬を使用します。**

●刺激伝道障害

高血圧、低血圧、徐脈など

●関節痛・筋肉痛

症状は一般に、投与開始後2、3日後にあらわれ、また、早期のクール(1~3クール目)より発現する傾向にあります。

●末梢神経障害

「手足のしびれ感、灼熱感、痛み：物がつかみづらい、歩行時につまづくことが多い」などの症状

***しびれがひどくなり、生活上の支障が出てきたときは必ず医師・看護師・薬剤師にご相談下さい。**

●アルコール過敏症

この薬は水に溶けにくいいため、アルコールを使って溶かしています。注射時のアルコール消毒で皮膚が赤くなる方、少量の飲酒で顔や全身が赤くなったり、具合が悪くなったりする方はお知らせください。

また、注射後、眠気やめまいなどがおこることがありますので、注射のあとは自動車の運転や危険を伴う機械の操作は避けて下さい。

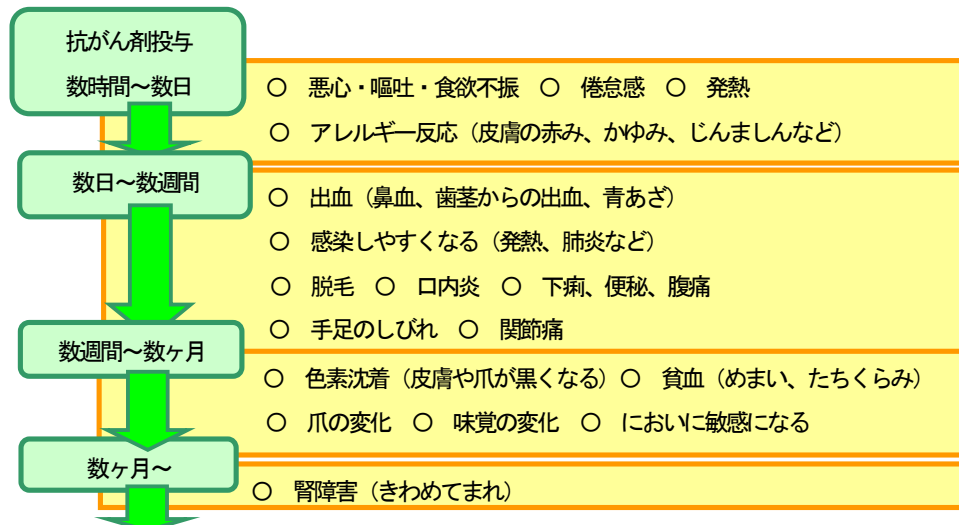
***上記症状が現れたときは、必ず医師・看護師・薬剤師にご相談下さい。**

◎副作用の発現時期の目安

*この図は、今回用いられている抗癌剤による副作用だけでなく、他の抗癌剤によって起こる副作用も含まれています。

これらの副作用がすべてあらわれるわけではありません。

また、発現する時期や程度も抗癌剤の種類や患者さんの体質により個人差があります。



◎副作用の対策について

★吐き気・嘔吐、下痢と便秘、口内炎、感染症、出血、貧血、脱毛などの副作用の対策について知りたい方は、資料をお渡しすることができますのでお申し出下さい。

◎薬品毎の副作用について（添付文書における重大な副作用を製薬会社作成「薬のしおり」などから抜粋）

まれな副作用ですが、このような症状が現れた際には医師・薬剤師・看護師へご相談下さい。

【パージェタ】

〈好中球減少症、白血球減少症〉熱が出る、体がだるい、のどが痛いなどのかぜのような症状

〈Infusion reaction〉さむけ、熱が出る、体がだるい、吐き気、赤い発疹、高血圧、呼吸困難

〈アナフィラキシー、過敏症〉蕁麻疹、かゆみ、全身のかゆみを伴った発赤、発疹、目や口唇周囲の腫れ、目や口唇周囲の膨脹、ふらふら感、冷汗、意識障害、呼吸困難、動悸、息切れ、しゃがれ声、けん怠感、紅潮、発汗、熱がでる、さむけ、しびれ

〈間質性肺疾患〉熱や咳が出る、呼吸困難、息切れ、頭痛、体がだるい

【ハーセプチン】

〈心障害〉息切れ、胸がどきどきする、脈が乱れる、呼吸困難、息苦しい、胸が痛い、胸の圧迫感、胸が苦しい、咳が多くなる、ピンク色の泡のような痰がでる、寒気がする、冷汗が出る、手足がしびれる、発疹、じんましん、むくみ、かゆみ、発熱、尿の量が減る、立ちくらみ、血圧低下

〈アナフィラキシー様症状〉寒気がする、冷汗が出る、手足がしびれる、呼吸困難、息苦しい、息をする時にヒューヒュー音がする、気管支がけいれんする、胸が痛い、胸が苦しい、脈が速くなる、咳や痰が出る、ピンク色の泡のような痰がでる、発熱、立ちくらみ、低血圧、めまい、耳鳴り、頭痛、頭重、意識がぼんやりする、意識がなくなる、からだの力がぬける、発疹、じんましん、かゆみ、顔がはれる・むくむ、顔・舌・のど・くちびるがはれる

〈間質性肺炎・肺障害〉熱や咳が出る、痰が出る、息切れ、呼吸困難、頭痛、体がだるい

〈白血球減少〉〈好中球減少〉熱が出る、体がだるい、のどが痛いなどのかぜのような症状

〈血小板減少〉

〈貧血〉

〈肝不全〉〈黄疸〉〈肝炎〉〈肝障害〉食欲不振、皮膚や白目が黄色くなる、体がだるい、おなかが膨る、吐き気、おう吐、昏睡、手足・関節の痛み

〈腎障害〉尿が出にくくなる、尿が出ない、血尿が出る

〈昏睡〉昏睡、意識がなくなる

〈脳血管障害〉頭痛、吐き気、おう吐、意識がもうろうとする、片側の手足の麻痺、強いしびれ

〈脳浮腫〉手足のふるえ、筋肉痛、口が渇く、意識がぼんやりする、意識がなくなる、混乱する、呼吸の回数が増える

〈敗血症〉さむけ、ふるえを伴う急な高熱、脈が速くなる、呼吸困難、関節の痛み、血圧が下がる

【パクリタキセル】

〈ショック、アナフィラキシー様症状〉急に呼吸が困難になる、胸痛、血圧低下、脈が速くなるあるいは遅くなる、顔などがぼてる、むくみ、発汗

〈白血球減少等の骨髄抑制〉熱がある、さむけがする、のどが痛い、咳が出る、排尿時痛、出血しやすい、血が止まりにくい、貧血

〈末梢神経障害〉手足の痺れ、服のボタンかけができない、手先の細かい作業に支障

〈間質性肺炎、肺線維症〉咳が続く、息苦しい、発熱

〈急性呼吸窮迫症候群〉急に呼吸が困難になる

〈心筋梗塞、うっ血性心不全、心伝導障害、肺塞栓、血栓性静脈炎、脳卒中、肺水腫〉動悸、息切れ、胸痛、息苦しい

〈難聴、耳鳴〉聞こえにくい、耳鳴りがする

〈消化管壊死、腸管穿孔、消化管出血、消化管潰瘍〉激しい腹痛、下血

〈重篤な腸炎〉激しい腹痛、下痢

〈腸管閉塞、腸管麻痺〉食欲不振、悪心・嘔吐、著しい便秘、腹痛、腹部膨満

〈肝機能障害、黄疸〉黄疸が出る

〈膵炎〉上腹部の激痛

〈急性腎不全〉尿が出なくなる、血尿が出る

〈皮膚粘膜眼症候群、中毒性表皮壊死症〉手足に輪状の紅斑、発熱、下痢、やけどのような症状

〈播種性血管内凝固症候群〉出血しやすい、血が止まりにくい

◎ **上記のほかにも副作用が現れることがあります。**

他にもからだの異常を感じたら、主治医や薬剤師、看護師に相談してください。